

キャンパス内で見られる代表的な動植物

区分	種名	写真	解説
植物	キバナノアマナ		北大キャンパスでもっともよく見られる野草の一つで、ハルニシ林の下で早春にエゾエンゴサク、アズマイチゲなどとともに咲いています。花は黄色です。春植物の一種で、初夏には地上部が枯れてしまいます。
植物	アズマイチゲ		雪解け直後に花茎を伸ばし、白い花を一輪ずつ咲かせます。花茎の周りに根生葉をたくさん出し、群生します。春植物の一種で、初夏には地上部は枯れてしまいます。北大キャンパスの中でもときどき自生します。
植物	エゾエンゴサク		春植物の一種で、雪解けから間もなく咲き始めます。花の色はふつう青ですが、うす紫やピンク、白などもあります。花は細長い筒状で、奥まった部分に蜜が隠されています。結実するには、マルハナバチが訪花し、受粉する必要があります。北大キャンパスの中でもときどき自生を見かけます。
植物	ムラサキケマン		二年草で、一年目はロゼットの姿で過ごし、翌年の5～6月に花茎を伸ばして薄紫色の花を咲かせます。花には蜜があって昆虫が訪れますが、訪花されなくても結実できます。結実すると、中のタネがはじけ飛びます。北大キャンパス内では、サクシュコトニ川沿いなどで見られます。
植物	ミズバショウ		水辺に生育します。北大キャンパスのものは多くが植栽されたものですが、恵迪の森には自生もあります。花時は白い花びらのような仏炎苞が目立ち、肉穂花序を包んでいます。花が終わると、ヘラ状の葉が伸び、1m前後に達します。
植物	ヒメザゼンソウ		早春に葉を広げますが、夏前には枯れてしまいます。入れ替わるように、暗い林床で目立たない花が咲きます。近縁のザゼンソウの花をずっと小さくしたような感じで、草木の陰でひっそり咲くため、なかなか見つけられません。北大キャンパスの中では、本来の植生が残っている場所だけで見られます。
植物	クロユリ		多年草で、地下に白い球根があります。5～6月に黒褐色の花を茎頂に少数咲かせますが、3倍体のためまったく結実しません。地上部は、開花後あまり時間をおかずに枯れます。北大キャンパスのものは多くが植栽されたものです。

区分	種名	写真	解説
植物	オオタチツボスミレ		春、スミレ特有の形をした青紫色の花を付けます。花には距(きょ)と呼ばれる突起があり、ここに蜜を貯めています。本種は距の部分が白いのが特徴。花が咲き終わったようにみえても、次々とおぼみが作られます。このつぼみは開くことなく果実になり、閉鎖花(へいさか)と呼ばれます。果実は三角錐状で、中に丸いタネが入っています。北大キャンパスでは林内や草地にときどき生育します。
植物	オオバナノエンレイソウ		春を彩る代表的な林床植物の一つです。直立する茎の先に3枚の大きな葉と花をつけます。開花は5~6月ごろで、エンレイソウの仲間ではもっとも花が大きく、花びらの色が白いのが特徴。北大キャンパスでは恵迪の森に自生し、インフォメーションセンター前に植栽されています。北大の校章にもデザインされています。
植物	オオハンゴンソウ		北米原産の多年草で、繁殖力が強いので、環境省が定める「特定外来種」に指定されています。湿地周辺や暗い林内でも生育できます。地下茎からロゼット葉を出し、茎を直立させます。茎は高さ1-2mに達して枝分かれし、夏から秋にかけてヒマワリを小型にしたような黄色の頭花をたくさんつけます。北大キャンパスでは恵迪の森などに自生し、駆除が行なわれています。
植物	オオハナウド		少し湿った森の中やへりに群生する多年草。茎は中空で太く、1.5m前後になります。葉は大きく、3つに分かれます。初夏、茎に先に、大きな散形花序を作り、白い小さな花がすき間なく集まって咲きます。花のじゅうたんの上にはいろいろな種類の昆虫が集まります。北大キャンパスの中でも、林縁や林内に大きな群生が見られ、花が咲くと独特のおいが漂います。
植物	オオウバユリ		やや湿った林に生え、キャンパス内でも大きな群落があります。タネから芽生えた一年目は、糸のように細い葉を一つだけつけます。その後、数年かけて成長し、大きな葉を数枚つけるようになり、地下に球根が発達します。球根が十分大きくなったところで初めて茎を伸ばし、大きな白い花を咲かせます。秋になってすべて結実し終わるころには、球根の栄養はすっかりなくなり枯れてしまいます。
植物	ウツボグサ		林縁や明るい草地に生育する小型の多年草です。踏みつけにも強く、林道の脇などでも見られます。7~9月に、青紫色の小さな花を咲かせます。花には蜜があり、ハナバチが訪花します。北大キャンパスでは、工学部前の庭園などで見られます。造園に伴って外から持ち込まれたものと思われる。
植物	エゾエノキ		キャンパスに多いハルニレの仲間です。国蝶のオオムラサキの幼虫は、本種の葉を食べて育ちます。北大キャンパスに生育するのはほとんど若木のみであり(大野池の近くには繁殖個体あり)、植栽されたものと考えられます。

区分	種名	写真	解説
植物	エゾサンザシ		絶滅危惧種に指定される珍しい樹木です。樹高は最大10～15mで、ハルニレ林の中では林冠に届きません。成長は遅く、材質はとても堅くなります。6月頃に、枝先に白い小さな花をまとめてつけます。結実すると黒紫色の液果になります。北大キャンパスには自生木がわずかに残存します。
植物	ハンノキ		湿地に生える高木で、湿原では純林を作りますが、多少水はけのよい場所ではハルニレやヤチダモと混生します。根には根粒菌が住み着いていて、窒素の固定を行なっています。花は目立たないが、他の植物に先駆けて4月ごろに咲きます。果実は10月ごろに熟し、翼(よく)がついたタネは風で散布されます。北大キャンパス内には、恵迪の森などに自生するほか、中央ローン周辺に大きな残存木が見られます。
植物	オニグルミ		湿った林縁などによく生える落葉高木で、高さ10～20mになります。葉は大きく、4～10対の小葉に分かれます。花は、雄花と雌花が別々の花序(花の集まり)を作って咲きます。秋になると、大きな実(クルミ)をふさ状にたくさんつけます。エゾリスやアカネズミなどが好んで食べ、越冬用に貯食されます。北大キャンパスにも植栽されたものと自生のものが生育しています。
植物	シンジュ(ニワウルシ)		中国原産の落葉広葉樹で、街路樹や公園樹として植栽されます。成長が速く、直径80cm以上、高さ25m以上の大木に育ちます。名前だけでなく、葉もヤマウルシに似ていますが、ウルシの仲間ではありません。雌雄異株で、雄花序のほうが目立ち、強い香りを放ちます。雌株には秋に、ヤチダモに似た果実がたくさんできます。紅葉が美しい。繁殖力が強く、北大キャンパス内でも、弓道場や理学部周辺では逸出が目立っています。
植物	ニセアカシア		北米原産の外来樹で、公園や街路樹に植栽され、北大キャンパス内にも生育します。根系にすむ根粒菌のおかげで痩せ地でも成長は速く、大きいものでは直径50cm以上、高さ20m以上に達します。横に伸びた根のところどころから萌芽するという性質を持ち(根萌芽)、種子によっても繁殖するなど、繁殖力は旺盛です。初夏に、よい香りがする白色の花をたくさん咲かせ、ミツバチの重要な蜜源にもなっています。
昆虫	エゾコマルハナバチ		マルハナバチは長い毛でおおわれた丸い体、長い舌が特徴です。女王バチは体長1.5～2cmにもなります。大きな羽音を立てて花から花へと飛び回ります。性質はいたっておとなしく、手でつかんだりしなければ刺されることはありません。優秀な花粉の運び屋で、植物のパートナーといえます。キャンパス内でもっともよく見かけるマルハナバチです。
昆虫	エゾトラマルハナバチ		オレンジ色の毛でおおわれ、マルハナバチの中でも大型で、特に長い舌を持っています。オドリコソウやホウチャクソウなどの花から蜜や花粉をとるのに適しています。マルハナバチの中でも特殊化していて、都市化や農地化で数が減っていますが、キャンパス内では少数が生息しています。

区分	種名	写真	解説
昆虫	キアゲハ		大型のチョウで、開けた場所を好みます。翅は黄色地に黒の模様が入り、飛んでいる姿は優雅でよく目立ちます。幼虫は、セリ科植物の葉を食べて育ちます。キャンパスでは、外来種のドクニンジンにも発生します。ミカン科植物を食べるナミアゲハとはよく似ていますが、キアゲハの方が黄色みが強く、前翅のつけ根が黒いのが特徴です。キク科やマメ科などの花に止まって、蜜を吸います。
昆虫	ナミアゲハ		大型のチョウで、キアゲハによく似ていますが、翅の色が黒っぽくすすけた感じで、少々地味です。幼虫はミカン科の植物を食べて育ちます。キャンパス内ではキハダを食べていますが、それほど多くはありません。
昆虫	ベニシジミ		小型のチョウで、キャンパス内でも普通に見られます。ハネは黒地にオレンジ色の斑が目立ちます。季節によってハネの色や模様の違いがあり、春は明るい色彩ですが、夏は黒っぽくなります。成虫は早春から晩秋まで見られ、年に何回も産卵と羽化を繰り返します。幼虫はスイバやギシギシなどタデ科の草を食べて育ちます。成虫はさまざまな花を訪れて蜜を吸います。
昆虫	クジャクチョウ		翅の表面は一面黒っぽい色で目立たなくのに対し、前後翅にはクジャクの羽にあるような紋がありよく目立ちます。はねを開いて静止した姿はたいへん美しい。成虫はキク科などの花を訪れ、花の蜜を吸います。幼虫は全身黒色で長い棘を持ち、イラクサ類やカラハナソウなどを食べて育ちます。8-9月に羽化し、成虫で越冬します。キャンパス内でも繁殖しています。
昆虫	オオクロナガゴミムシ	no photo	ゴミムシは、オサムシ類のなかでも比較的小型のものを総称しています。名前の「ゴミ」は、ごみ溜めのような場所に多いからと考えられます。全身が黒く、扁平な体形で、大顎が発達し、活発に地面を歩き回る甲虫です。本種は森林性で、体長14.5～18mmとやや大型です。キャンパス内では恵迪の森などに生息しています。
昆虫	マルガタナガゴミムシ	no photo	落ち葉や石の下などに普通に見られるゴミムシの仲間です。体長11～14.5mmで、体の表面には弱い緑銅色の光沢があります。成虫は5～10月にかけて活動し、成虫で越冬します。キャンパス内では恵迪の森などに生息しています。
昆虫	ヒラタシテムシ		林内の地表に生息するシテムシの仲間です。オサムシやゴミムシの仲間に比べて、体の横幅が広いのが特徴です。体はうすく赤みがかっており、背中上の表面の縦縞が目立ちます。野ネズミなどの哺乳類の死体を食べて生活しており、遠くにおいても死体の臭いをかぎつけてきます。幼虫も同じように死体を食べます。キャンパス内では恵迪の森などに生息しています。

区分	種名	写真	解説
昆虫	オニヤンマ		体長10cmにもなる大型のトンボで、とくにメスはオスよりも大きくなります。これだけ大きくなるには、幼虫の期間が2～3年に及ぶと考えられています。体色は黒地に黄色の縞模様で、成熟個体の複眼は光沢のある緑色をしています。キャンパス内ではサクシュコトニ川沿いなどで見られます。
昆虫	オオコオイムシ		カメムシの仲間で、水草の茂るため池や小川、水田の水中に生息しています。体長は2cmほどで、扁平な形をしています。鎌のような前あしでモノアラガイや昆虫を捕らえ、針のような口で体液を吸います。メスはオスの背中に数十個の卵を産みつけます。キャンパス内ではサクシュコトニ川に生息しています。
魚類	イバラトミヨ		体長が5cmほどのごく小さい淡水魚です。水生昆虫などをおもに餌にしています。繁殖期になるとオスは、流れの緩い場所の水底近くに水草などを使った巣を作り、メスを誘って産卵させます。一つの巣に数尾のメスが産卵するので、卵は全部で30～80個になります。ふ化してから約2週間は巣のなかで生活し、その間オスが巣のそばにいて保護します。キャンパス内ではサクシュコトニ川に生息しています。
魚類	ドジョウ		水田やため池など身近な場所に多く、昔から親しまれてきた水辺の生き物です。とくに、水草が生えて泥の多いような場所を好みます。細長い体形で、いずれのひれも小さくて丸い形をしています。泥の中からえさをとるので、口は下向きにつき、ひげを持っています。気温が下がると泥に潜って冬眠します。キャンパス内ではサクシュコトニ川に生息しています。
魚類	フクドジョウ		ドジョウが水田やため池などにすむのに対し、本種は水のきれいな川でよく見つかります。とくに、川底に小さな石が敷き詰められたような場所を好みます。ドジョウの仲間は円筒形の細長い体形をしていて、ひれはいずれも小さくて丸い形をしています。本種は尾びれのへりが直線的で、まだら模様になることが多いのが特徴です。川底にいる水生昆虫などをとるので、口は下向きにつき、ひげを持っています。
両生類	エゾサンショウウオ		成体は体長15cmほどになります。雪解け直後の水辺で産卵し、夏には上陸し、森林で生活します。北大キャンパスでもわずかに生息していて、市街地では貴重な生息地となっています。
両生類	エゾアカガエル		成体は体長5cmほどになります。雪解け直後の水辺で産卵し、夏には上陸し、森林で生活します。北大キャンパスでもわずかに生息していて、市街地では貴重な生息地となっています。

区分	種名	写真	解説
両生類	トノサマガエル		成体は体長5～9cmほどになります。水辺で産卵し、成体は水辺や草地で生活します。本来北海道には分布しませんが、北大キャンパスでは農場周辺に生息しています。
鳥類	シジュウカラ		カラの仲間ではもっとも大きく、少しスマートですがスズメと同じくらいの大きさです。のどから胸にかけての黒いもようは、そのまま尾羽の付け根まで長く延びています。背中側には光沢のある黄緑色の部分があり、見る角度によってはよく目立ちます。よく通る声で鳴きます。北大キャンパスでも繁殖し、もっともよく見かける野鳥の一つです。
鳥類	オンドリ		カモの仲間で、繁殖期のオスは鮮やかな色になります。大きく立ち上がったオレンジ色の羽や目の後ろの白い部分などが目立ちます。ふだんは水辺にいますが、ミズナラなどの大木のうろを使って巣づくりをします。北大キャンパスでも繁殖し、大野池で子育てしています。
鳥類	マガモ		水辺などでもっとも普通に見られる大型のカモで、オスとメスがまざった群れを作ります。メスは全身褐色ですが、秋以外の季節のオスは頭が緑色でよく目立ちます。また尾の先が上にはねあがっているのも他のカモにはない特徴です。北大キャンパスでも繁殖しています。
哺乳類	エゾヤチネズミ		開けた草地に数多くすんでいる野ネズミです。尻尾が短いのが特徴です。草の実や小さな木の実などを食べています。冬には木の皮や根をかじるため、林業被害として問題になることもあります。年によって個体数が大きく変動します。北大キャンパスでも数多く生息しています。
哺乳類	アカネズミ		森の中で地上生活する野ネズミです。長い尾を持ち、活発に活動しています。昆虫類や木の実などをえさとしています。冬眠はせず、秋に木の実を大量に貯食して過ごします。特に、クルミやドングリが好物です。キャンパス内では限られた場所に生息しています。
哺乳類	キタキツネ		森林・草原・道路わきなどでもよく見かける中型の哺乳類です。背中側は全身赤褐色で、長い尾が特徴です。日中も活動しますが、主に夜に活動し、ネズミや昆虫、果実などを食べています。道路に出てエサをねだることがあります。キャンパス内にも少数が生息しています。